

平成28年度事業報告について

<概況報告>

平成28年度は、総収益103,187万円となり、初めて10億円超えた年となりました。

6拠点、10事業所中8事業所が予算計画を達成しました。今年度は、福祉用具貸与販売事業所が介護ロボット販売を国の補助金を利用して各事業所に提案し各地域で8事業所に納入することが出来ました。新規事業はなかったもの各事業所責任者の成長が見られた年となりました。今後も新しい取り組み、既存事業の改善を行うことで新規事業のないところをカバーしていきたいと思えます。

平成28年度法人目標

1. 事業推進
2. サービスの質の向上
3. 人材育成

1. 事業推進

① 予実管理の徹底

売上計画	98,483万円	実績	103,187万円 (計画比 104.8%)
経費計画	94,287万円	実績	98,001万円 (計画比 103.9%)
経常利益計画	3,473万円	実績	4,492万円 (利益率 4.3%)

②. 目標件数の確認

入居・入所事業	目標件数	58,035件	実績	55,771件 (目標比 96.1%)
在宅事業	目標件数	34,814件	実績	33,428件 (目標比 96.0%)

③. 経費の確認

電気	1,479,382KW	前年比	107.7%
ガス	29,313 m ³	前年比	106.1%
消耗品費	487万円	前年比	108.4%

④. 未収金管理

2016年3月末日	18件	648,000円
2017年3月末日	24件	671,000円

⑤. 新規利用者確保

入所・入居申込者数 (3月末)	187名
短期事業新規利用者数	61名
通所事業新規利用者数	59名
小規模事業新規利用者数	14名
居宅事業新規利用者数	82名
福祉用具新規利用者数	94名
自立支援新規利用者数	6名

目標の把握、達成のための行動計画を立て、実施できるようになったことが成果となったと考えられます。

2. サービスの質の向上

①こやまケア推進

I お客様の気持ちになり小さなことでも気づき行動に移す

「羞恥心の配慮」「感謝の気持ちを言葉して伝える」

II リスク管理

誤嚥予防としてこやまケア推進委員会で

「いつまでも美味しく食事ができる」DVD作成し各事業所へ配布した。

Ⅲ施設間評価とISOとの融合

法人内 5月25日～6月21日

進捗確認 9月14日～10月26日

Ⅳこやまケアコンテスト in 日翔会

介護の部 7月3日 参加者11名 見学者26名

俳句・川柳の部 11月19・20日 地域の祭りに出展181名の方が投票

Ⅴ全国研究発表大会

法人→10事例作成、 選出→1事例

プロジェクトチーム立ち上げ進捗確認 5回

西日本エリア研究発表大会 10月11日

②ISO運用の充実

I 法人内部監査

1回目 5/20～6/21 9事業所 不適合8件 観察事項28件 評価できる点11件

2回目 9/13～10/25 6事業所 不適合0件 観察事項15件 評価できる点11件

II 法人間監査

8/12 アルクゆずり葉 不適合0件 観察事項5件 評価できる点2件 ←水澄会

III 本審査

12/6 GHにいざとさくらの丘 観察事項1件 評価できる点1件

12/6 小規模多機能ホームにいざとさくらの丘 観察事項0件 評価できる点1件

12/7 特別養護老人ホームあいご 観察事項0件 評価できる点1件

IV 研修

ISOレベルアップ研修 5/16.17 3名 (ロングレン)

ISO内部監査員事前研修 6/10 19名

ISO内部監査員養成研修 9/9 9/10 10名

ISO内部監査員フォローアップ研修 1/31 10名

ISO新品質マニュアル研修 9/4 8名 (広島)

3. 人材育成

①職員の定着率の向上

- ・職員親睦会 (日翔会ソフトバレーボール大会、事業所親睦会)
- ・ストレスチェックの実施
- ・有休休暇の取得推進

②職員数 196名 (2017年4月1日)

- ・入職者数 35名
- ・退職者数 41名
- ・退職率 20.8%

4. 資格取得と研修参加の促進

①資格取得

- ・初任者研修 (5/12～12/21) 3名受講
- ・実務者研修 (9/1～H29.6/22) 6名受講
- ・介護支援専門員 11名受験 3名合格 合格率27%

・介護福祉士
②事業所資格者数

17名受験 8名合格 合格率47%

社会福祉法人日翔会 職員資格保有状況(2017.3.31)

事業所名	資格名称	医師	看護師	准看護師	介護福祉士	1級・2級 訪問介護員 支援専門員	主任介護 専門員	介護支援 専門員	理学療法士	作業療法士	専門相談員 福祉用具	管理栄養士	栄養士	社会福祉 主任任用	初任者研修	実務者研修
特別養護老人ホームあいご			2	1	12	5		4	1				2		2	7
デイサービスかじか				3	3	3						1	1		1	1
福祉用具貸与販売事業所あいご					2						2					
ケアプランセンター日翔会					5		1	4					1	1		
グループホームにいざとさくらの丘					4	3										2
小規模多機能ホームにいざとさくらの丘				1	4	3		2							2	2
小規模多機能ホーム菜の花			1		7	3		1						1	3	
特別養護老人ホームゆずり葉			2	3	12	6						1	1	4	12	9
アルクゆずり葉					4	2								1		
ケアプランセンターゆずり葉					1		1									
合計		0	5	8	54	25	2	11	1	0	2	2	5	7	20	21

③2017年3月31日現在職員数

	2017年3月	2016年3月
拠点あいご	55名	59名
拠点かじか荘	21名	20名
拠点にいざとさくらの丘	19名	21名
拠点菜の花	13名	13名
拠点ゆずり葉	88名	84名
合計	196名	197名

2016年度こやまケア活動報告

基本方針

I、サービス水準の向上 II、研修の充実 III、人材育成

活動内容

1. サービス水準の向上

今年度法人全体での取り組みとして「羞恥心の配慮」お客様、職員へ「ありがとう」の感謝の気持ちを伝え合うことに取り組みました。羞恥心の配慮では排泄介助の祭に見守りが必要な方へは膝の上にタオルをかける取り組みを行いました。また、排泄時にはズボンを下げすぎないように、露出部分を最小限にするなど職員が意識し配慮できるようになっています。感謝の気持ちを伝えることについては、自立支援の際、移乗時や衣類の着脱時など自らして下さったことに対して言葉で感謝の気持ちを伝えました。職員間でも同様にいき、信頼関係も深まり互いに思いやる行動につながりました。

リスク管理では、「いつまでも美味しく食事ができる」のDVDの作成を行いました。サービス委員会を通じて各事業所に落とし込み事業所で勉強会を行いました。

①月間活動の取り組み

毎月月間活動を決め各事業所ごとに推進を行いました。

各事業所ごとに取り組み内容を検討し、ポスターを作成し啓蒙を行い、勉強会や環境整備、趣向を凝らしたおもてなし等取り組みました。毎月のテーマがあることで活動が明確になり行動に移しやすかったと思われます。また今年度は交通安全月間を設け地域の警察署の方に来ていただき交通安全教室なども実施することができています。

②施設間評価

ISOとこやまケアを融合し、こやまケア推進委員会を中心に内部監査員の資格を持つ職員が、こやまケア施設間評価とISO内部監査を実施しました。

③お客様アンケート

9月にお客様全員を対象にアンケートを実施しました。10月に集計分析し改善を行い、その結改善内容などを掲示するとともに郵送でお客様に報告しました。

④こやまケア介護技術コンテスト

7月3日介護福祉士が、自分の持っている技術を競い合います。今年は「自室から安全に食堂まで移動する」を課題としました。

介護にちなんだ俳句、川柳を地域の文化祭で発表し介護の仕事について地域の方々にも理解を深めていただきました。

⑤ケアプランチェック

全事業所、年2回介護支援専門員によるチェックを行いました。

⑥法人環境整備

年2回の環境整備は、6月3日と11月4日に実施しました。

⑦こやまケア家全国研究発表大会

研究事例作成においては、プロジェクトチームを立ち上げ、5事例をこやまケア全国研究大会で発表することが出来ました。

2. 研修の充実

新人研修 4月4日～7日 新人フローアップ研修 7月

採用者研修 8月3日 3月29日 年2回

中堅職員研修 10月5日

管理者研修 年2回

3. 人材育成

施設間評価 新評価者に自己模擬評価実施(4月)

初級リーダー研修、中級リーダー研修 (年6回コース)

2016年度採用活動報告

1. 事業推進

新卒者16名(大・短・専卒11名、高卒6名)

①福祉系学部、学科の学生の獲得

- ・社会福祉士、介護福祉士計5名の獲得をした。
- ・福祉系の学生の志望理由は「お客様」と呼ぶことで一人一人を敬い大切に接していること。理念の共感だった。
- ・学生の傾向として、地域貢献、地域福祉の充実、働きやすさを志望理由に挙げている。理念の共感を含め、学生の志望理由となるものを含めたPR活動の継続を行った。

②インターンシップの実施

- ・平成28年1月～平成28年12月に実施
31名参加(大卒等21名 高卒10名)
採用につながったのは9名(大卒等6名 高卒等3名)

③学生へのプレゼン内容、採用ツールの見直し

- ・「介護男子」「介護女子」のA1サイズポスターは目立ちやすく好評だった。
- ・ブース装飾のテーブルクロスと椅子カバーは目立った。特に県社協や県の担当者からの評価があった。
- ・継続して流しているDVDは仕事内容がわかりやすいと好評だった。

④会社説明会の実施・参加、学校訪問

- ・学校訪問：累計90校 学内説明会7校実施
- ・就職フェア等説明会：117回実施 301人着席
- ・選考試験：27名応募 24名内定出し 17名内定承諾
- ・鳥取県就活サポーター1名の登録ができた。美作大学、武庫川女子大へのガイダンスに参加してもらった。
- ・学生の傾向は、「働きやすさ」を重視し就活をしている。日曜日・祝日の勤務、残業が無い事、連日の休日が取れるかという質問が多かった。
- ・福祉系の学生の多くは、高齢者介護より障害者介護を希望する人が多かった。

⑤その他イベント等

- ・4/24 鳥取県の介護業界を志望する学生に向け、高口光子氏の講演会を実施した。地元紙などへの広報をして130名の参加。学生はほとんどおらず、福祉関係者が多かった。

内定者の参加も行った。県内高校生のボランティア参加を依頼し、8名の参加があったが採用につながらなかった。

- ・高校生向けのインターンシップを実施した。
 - ・「日野郡 医療・福祉の就職フェア」を実施、日野郡内の3つの福祉法人がブースを出した。
- 来場した学生は日翔会にエントリーした学生のみだった。採用につながっている。
- ・内定式、入職説明会、広報誌・祝電などの送付は行っている。
 - ・採用パンフレットの内容を、マイナビ担当者にチェックしてもらい作り直した。
 - ・学校関係者への季節の挨拶を行った。学生を紹介してもらうことができた。

⑥資格取得研修

- ・初任者研修20名定員 12名取得
- ・介護福祉士実務者研修20名定員 11名取得

事業所事業報告

1. 特別養護老人ホームあいご

①. 事業推進

入院者の減少を目標に掲げ、勉強会の実施によるケアの向上、報連相のルールを明確にし、気付きの段階で確実に報告出来るように取り組んできました。食事の事故を受け、職員の目を増やす、食事の職員・お客様の配席の変更、誤嚥のリスクが高いお客様を看護職員が配置されているユニットで食事を摂取して頂く、個々のマニュアルを作成し、ケアの統一を図りました。また、異常時等に関する勉強会を開催し、早期発見・早期対応に努めました。職員が一丸となり、再発防止に向け決められた取り組みを実施してきました。協力病院と頻回に連絡を取り、入院の時期を調整しました。その結果、入院者が前年度1043名に対し、今年度は546名となり半減しました。

年度末にインフルエンザによる集団感染があったので、次年度は蔓延しないように、感染予防、対策を徹底します。

新規利用者確保については、営業を目標通りに行い、4月から3月までの間、27名の新規利用者につながりました。

②. サービスの質の向上

毎月の月間活動を実施してきました。お客様満足度向上については、頂いたご意見を受け止め、環境整備・改善や、接遇、状態観察の徹底等行ってきました。今後も継続して行っていきます。

ケアの質の向上については3大介助に焦点をあて、勉強会を行いました。特に食事に関しては専門職に指導をもらい、お一人お一人に合ったケアが出来るように実践しました。また、食事の見守り方法の検討や合同で食事を食べてもらうなど、誤嚥・窒息防止に向け取り組みました。次年度も継続して取り組み、誤嚥・窒息が無いようにしていきます。

ISOの確実な運用については、書類や手順書の改善等を行いました。12月にはISO本審査や実地指導がありましたが、特に指摘等はありませんでした。

28年度は改善に向けていくための気づきが少なかつたため次年度は気づきが増やせるよう取り組みを行っていきます。

③. 人材育成

職員の定着率向上については、ノー残業デーの実施、誕生月有給の計画的取得、定期的な面談、カフェタイムによる交流等を行いました。有給は計画的に取得出来、身体的なストレスの軽減が図れたと思います。親睦会、忘年会等を行い、より団結力が高まったと思います。定着率の向上として取り組んできましたが、6名の介護、看護職員が離職する結果となりました。資格取得については、介護支援専門員の合格者はありませんでした。介護福祉士については6名受験し2名の合格でした。模試対策、個別に過去問の実施をしました。研修や勉強会については、参加出来なかつた職員も伝達講習を行い、

周知することが出来ました。今後は後追いをしっかりと行い、身に付けた知識が現場で活かしているかの確認を行っていきます。

2. デイサービスかじか荘

①. 事業推進

- ・目標件数をスタッフ全員で把握し達成する。
- ・事業所会議にて実績、次月の目標件数の確認を行い、月2回の行事の中で参加してもらえ方の確認をおこなった。行事にて30名の方に利用していただけたのは3回と土曜日20名の4回だったが25名以上の集客を度々行ない声かけすることも企画担当職員の集客に対する意識向上につながった。
- ・土曜日の利用の希望が多く4月より15名定員、20名定員に変更を行なった。
- ・職員の退職により30名定員を25名に2月より変更を行なった。
- ・認知症加算も取れなくなる。
- ・新規利用者の確保では、月2名以上の新規利用者獲得を目指す。
- ・毎月の営業にて2件の新規を目指していき月平均2.3名となることができた。

- ・無料体験のアピールも各居宅に行ない、5名に体験していただき新規に繋がった

②. サービスの質の向上

※こやまケア推進

*1日を楽しく過ごしていただく場の提供・満足度の向上

- ・行事企画も月2回は行ない30名を目指した。
- ・行事決め会議をレクリエーションの中で行ない、お客様の希望の室内グランドゴルフや花の寄せ植え・外出行事などを楽しんでいただくことができた。
- ・ひのっ子保育所との交流会はインフルエンザなどの感染症のはやらない10月に行うことができた。
- ・リハビリ要素のある体操は、機能訓練指導員に教わり毎回体操をしていただいたり、個別の歩行訓練や屈伸運動・足の踏み込み・足上げなど行った。
- ・毎月1回クッキングを行事として行ない、管理栄養士・調理師の指導にて色々な調理を楽しんでもらえた。
- ・手作業を提供し、町の文化祭に参加。壁面も毎月かえることができ季節感を持たすことができた。
- ・こやまケア推進月間に参加し、美化活動や感染予防に努めた。
- ・施設間評価・お客様アンケートに参加・嗜好調査も年2回行ないお客様の要望に沿ったメニューにも反映している。
- ・お客様のケアチェック表を作成し、爪切りや入浴のない方の足浴などをを行った。

・環境整備もこ

やまケア月間やキラキラワンデいの参加、美化委員会とともに計画的に行った。

※ISO改訂版の確実な運用

*ISO既存事業所の継続

- ・帳票の改訂時は速やかに行ない手順書の整備、通所委員会にての水平展開をおこなえた。本審査を受け観察事項1件であった。

③. 人材育成

※職員の定着率向上

*働きやすい職場作り

- ・職員親睦会やノー残業デイ・誕生日休暇をおこない働きやすい職場作りに努めたが2月・3月に職員の退職が5名ありその後の採用はなかった。
- ・引き続き職員確保を心がける。

※資格取得と研修参加の推進

*資格取得と職員の力量アップのため研修の積極的参加

- ・認知症実践者研修・実務者研修・県社協主催の研修・西エリア研修など力量アップのため

め参加できた。

- ・介護支援専門員・介護福祉士試験には1名ずつ合格した。

3. ケアプランセンター日翔会

平成28年6月より4人体制から5人体制になり、新規利用者の受け入れ態勢を整えることができたこと。

各市町村開催の地域ケア会議への積極的な参加や、日々の業務の中で、こまめな連絡、相談を行い、包括支援センター、病院、サービス事業所との信頼関係を維持できていること。の2つの要因により、新規利用者確保に繋がり、目標も達成することが出来ました。

職員の仕事量の平均化を図る為、地区により担当を振り分け、仕事量の多い職員の担当を新人職員に引き継ぎ、一人の職員に負担が偏らないように取り組みました。また、担当するケースにおいて、一人で抱え込まないように、難しいケースや困っていることについては、随時、事業所内で検討しながら、チームで取り組むように心がけていきました。その結果、職員の精神的負担も軽減され、離職者もなく、5人体制を維持することが出来ました。

また、専門職としてのスキルアップを図る為に、主任ケアマネのアドバイスのもと、週1回のスキルアップミーティングにて、相談援助技術の勉強会を行ったり、ケース検討や介護保険等の制度でわからないことは、調べて、チームで情報を共有したことで、職員のスキルアップの向上も図れてきています。

今後の課題としては、介護保険制度以外の医療、障害、福祉サービス等の知識を深めていくことと、外部で開かれる介護支援専門員等の研修に積極的に参加していくことで、更なるスキルアップが図れるようにしていきたいと思えます。

また、業務が追い付かず、残業することもある為、仕事を溜めないように、一人一人が普段の業務について改善点がないか意識して仕事を行い、業務改善を行いながら、仕事の効率化を図っていきたく思います。そのためにも、日々、意見交換を行いながら、風通しのよい職場づくりに取り組んでいきます。

4. グループホームにいざとさくらの丘

①事業推進

I. 各事業所における予実管理

売上：目標 34,326 千円→実績 34,110 千円 (99.4%)

件数：目標 3,006 件→2,995 件 (99.6%)

- ・アクシデントが発生しなかったことは、毎回のカンファレンスでお客様の状態を職員間で共有出来た事とセーフティの検証により、対策がしっかりとれた事が要因と考える。

II. 新規利用者確保

- ・常時即入居希望者を2名確保出来た。
- ・待機者への意向確認は、毎月初めに出来ている。

②. サービスの質の向上

I. こやまケア推進

- ・文化活動として、毎月1枚その月に合った歌をテーマにし、ちぎり絵を完成させた。毎月のカルチャーとしてお客様に喜んで頂けた。
- ・エアコン、換気扇、フロアの棧等普段出来ない箇所を月毎に決め掃除を行った。
- ・接遇研修を年2回実施した。改めて振り返る事ができ、有意義なものとなった。
- ・施設間評価では、新評価員として1名が他施設の評価に入ったが、事前に自施設で模擬評価を行った事で着眼点の理解を深められている。

II. ISO の確実な運用

- ・内部監査員養成研修に1名参加。基礎を学ぶことが出来た。
- ・ISO についての勉強会を行ったが、職員への浸透はまだ不十分である。事業所内部監査

を計画していたが実施出来なかった。来年度は、内部監査員が中心となり事業所内監査を行っていく事で、職員への浸透を図っていく。

- ・12月はサーベイランスを受審し、評価出来る点1件、観察事項1件であった。

③. 人材育成

I. 職員の定着向上

- ・親睦会については、計画通り年3回実施し、職員同士の交流を図る事が出来た。
- ・目標に挙げた年4回の面接は年2回（9月、3月）の実施に終わった。悩みや不安のある職員に対しての面談は随時行った。しかしながら、自己都合での退職者が2名あった。
- ・10月にはさくら Fes2016 を開催した。第1回目という所もあり手探りで準備を進めて行ったが、地域の方ボランティアの方の協力を得て、盛大に開催することが出来た。より地域とのつながりを深めていく為には必要不可欠と感じた為、来年も開催していく。

II. 資格取得と研修参加の推進

- ・職員の資格取得では、介護福祉士1名受験し合格した。
- ・介護支援専門員1名受験するが取得には至らなかった。
- ・認知症実践者研修1名、防火管理者新規講習会1名、認知症介護基礎研修1名受講。
- ・研修の参加について80%以上の目標に対し65%から70%の参加率であった。勤務調整と共に参加の意義を職員に伝え、継続して呼びかけを行う必要がある。

5. 小規模多機能ホームにいざとさくらの丘

①. 事業推進

I. 各事業所における予実管理

- ・目標に対して、件数の達成は出来なかったが売り上げの達成は出来た。
- ・登録目標23名としていたが、他施設への異動により22名に落ち込んだ月もあった。
- ・包括、HP、居宅へ営業を行い待機者2名の確保は出来ていたが、泊り中心の希望が多く月間表の調整を行うが利用に繋げる事が難しかった。冬季に向けての泊り希望が多い為早めの調節を行い、希望に添った利用が出来る様に対応していく必要がある。
- ・営業、相談員連絡会、神郷ケア会議に参加することにより情報交換、空き情報の提示を行い新規利用者10名の登録が出来た。また、ケアマネ専従となったことによりお客様情報、状態が職員間で早く共有でき利用開始がスムーズに行えた。

②. サービスの質の向上

I. こやまケア推進

- ・今年度は、お客様の希望に沿った文化活動の提供が出来たと思う。主体的に取り組めるように促し、「次はこれを作りたい」と思う意欲を引き出せた。
- ・こやまケア月間のテーマに沿って、お客様が喜ばれる企画や環境整備を実施することにより満足して頂けた。

II. ISOの確実な運用

- ・ISO運用については、内部監査員養成研修に1名参加し、資格を取得することができた。今後は法人内の内部監査にも監査員として参加することによりスキルアップを目指していく。
- ・小規模委員会にて、情報を共有、水平展開し帳票仕組みを職員に周知し理解を深めることが出来た。
- ・12月はサーベイランスを受審し、評価出来る点1件、観察事項1件の結果であった。

③. 人材育成

I. 職員の定着率向上

- ・人材の定着については、自己都合により1名の退職があったが本人の希望により再入職されている。立地上入植希望者は少ないが、職員からの紹介などがあり入植につながった。また、今年度はケーブルテレビの取材や備北民報に取り上げられたことにより自施設を知ってもらえる事が出来た。

- ・親睦会は、計画通り実施が出来た。歓送迎会はその都度実施出来ている。
- ・さくらの丘初の祭りでは、職員が一丸となり企画、準備し地域の方、ボランティアの方、家族様の参加があり盛大に開催することが出来た。初めての事で戸惑い、悩み、助け合いながら成功したことにより職員全員がやりがい、達成感を感じてくれた祭りになることができた。来年度も地域貢献の1つとして開催を予定する。

II. 資格取得と研修の推進

- ・職員の資格取得では、初任者研修1名受講
- ・介護支援専門員1名受験 介護福祉士1名受験するが合格者なし。
計画している研修は実施出来たが、受験対策勉強会の実施が出来ず自己学習のみとなったので来年度は、試験前からきちんと計画を立て実施していく。
- ・外部研修では、1名参加することが出来たが他職員が開催内容が詳しく分かる工夫をしていく必要がある。
- ・内部研修では、介護福祉士が中心となり講師をすることが出来た為、引き続き継続していく。

6. 小規模多機能ホーム菜の花

①. 事業所推進

I. 予実管理の徹底

- ・売り上げ件数ともに目標達成しました。
- ・登録目標 23 人に対して 42.7 人、均稼働率 99.1%で推移することができ7月からは看護職員配置加算 I を算定することができたことが目標達成につながったと考えます。次年度もこの数値を維持できるようお客様の健康管理に努め、また職員の離職をなくし目標達成を目指します。
- ・体調不良のお客様は早期に受診を行い医療機関との連携を図りました。

H28 年 4 月～H29 年 4 月

H27 年度 入院者 4 名（登録解除 3 名 退院後引継ぎ利用 1 名）施設入所 1 名

H28 年度 入院者 4 名（登録解除 1 名退院後引き続き利用 3 名）施設入所 1 名

II. 新規利用者確保

- ・利用につなげるため、相談には即対応し待機者 3 名の確保ができています。また運営推進会議の中で地域の気になるお年寄りについて話し合いを行いました。1 名が利用につながっております。
- ・毎月開催される蒜山地域ケア会議に出席して居宅、包括、行政、社協と情報交換を行っています。また今年度新たな活動として年 3 回ケア会議メンバーの参加を拡大し医師、民生委員、福祉委員を交えての地域での見守り活動事業や、マップ作り、情報交換を行いました。その中で、菜の花の活動や空き情報等報告を行い、真庭市地域見守りネットワーク事業の協力事業所としても登録を行いました。

②. サービスの質の向上

I. お客様の満足度の向上

- ・こやまケア月間活動、施設間評価、お客様アンケートと計画通り実施ができました。お客様アンケートでは「丁寧で明るい対応で気持ちが良い」「緊急時に非常に速い」「行事がたくさんある」と良い評価を受けています。環境面で「居室に埃があった」とご意見をいた抱きました。良いところは継続し、環境面での改善を図っていきます。全国研究発表大会では、小規模の特性を活かした事例を発表することができています。
- ・行事においては計画通り担当者をつけ実施ができています。また今年度初めて川上子供園との交流会を持つことができています。
- ・家族会では年 2 回実施し 1 回目は蒜山地域認知症家族の会との合同企画で交流会を開催しています。2 回目は昼食バイキングを設けお客様の日頃の様子を DVD に収め見ていただくことができています。家族様、地域の方との関係性を次年度も築いていきます。
- ・嗜好調査を年 4 回実施しお客様から頂いた意見をメニューやクッキングに反映してい

ます。また新たに昼食バイキング、ケーキバイキングと職員の手作りでおもてなしをすることができています。次年度も継続してお客様の楽しみの一つとして継続をしていきます。

- ・地域行事としては、真庭市福祉運動会実行委員として企画し参加しています。そのほか蒜山文化祭、地域の祭り、福祉委員活動に参加することができています。地域とのつながりを大切にして地域に向いての活動を継続していきます。

II. ISO改訂版の確実な運用

- ・内部監査員を中心に毎月の職員会議で周知と確認を行い運用することができた。またサービス委員会で検討した結果を持ち帰り運用もできた。
- ・法人内の内部監査に内部監査員として審査することでレベルアップに繋げることができています。内部監査員1名養成できた。

③. 人材育成

I. 職員の資格取得

- ・職員の資格取得においては介護支援専門員2名が受験をしましたが結果取得することができなかった。
- ・介護福祉士受験に向けて2名が実務者研修を受けています。

II. 職員の定着率の向上

- ・昨年度の課題となっていた職員の休憩時間においては業務改善を行い確実に休憩が取れる仕組みができました。
- ・親睦会2回の開催。日翔会スポーツ大会3名参加して親睦を図ることができています
- ・働きやすい環境を築くため今年度は職員間でも挨拶、ありがとうと感謝の気持ちを伝えあうことをミーティング、職員会議で伝えていった、自然と言葉が出てくるようになりました。離職者0人。次年度も職員間の連携を密にして働きやすい環境をつくり離職者に繋がらないようにしていきます。

7. 特別養護老人ホームゆずり葉

①. 事業推進

I. 各事業所における予実管理

28年度実績として、入所の平均稼働率は98.5%であった。

月の入院平均日数は、108.3日。

今年度は、事故等の骨折による入院が減少した。しかしながら持病の悪化や高齢による食欲低下などが原因で入院されることが多かった。

また、9月からは経費削減と皮膚トラブルの解消を目指し、おしり拭き用品の見直しを行った。結果として、下用タオルとおしり拭きの併用を行い、お客様の皮膚トラブル解消に繋がり、おしり拭きの使用感も問題なく、コスト面でも貢献できた。

II. 新規利用者確保

即入居可能な待機者を5名確保していくという目標に対しては、定期的に入所判定会議を行い、次の面接予定や待機者の確認を行えた。

また、現在入所申し込みをされている方へ通知を行い、入所希望の意思確認を3月中に伺い待機者の整理を行った。

ショートステイは28年度実績として、平均90.8%の稼働で推移した。新規が月平均2.8名獲得できていることと、市や居宅からの相談があり、緊急ショートの受け入れを即日対応し、スムーズに行ったことが要因として挙げられる。しかしながら、12月、1月は急なキャンセルがあり、入院される方や特養に入所された方などが多くみられ、稼働を大きく下回る結果になってしまった。

今後の取り組みとしては、稼働が下がりやすい冬期に対して、対策をとっていく必要がある。

②. サービスの質の向上

I. こやまケア推進

毎月の共通テーマに沿って月間活動の取り組みを行った。内容としては、ポスターによ

る職員への啓蒙活動や、新見警察署による交通安全講習の実施を行った。また、お楽しみ月間では各ユニットで行事を企画して、お客様に楽しんで頂く事が出来た。お客様アンケートについては、昨年よりも接遇面での評価が高かった。特に「挨拶がとても良い」「ほんとによく見て下さる」など具体的なコメントを頂き、職員のモチベーション向上に繋がっている。

一方で、関わりの所や環境面でのご指摘もあったことについては、改善を行った。ユニットでの毎月の行事等企画し、実施できるようになってきている。

来年度は、お客様に日々の楽しみが持続出来るように、仕組みをもう一度見直し、標準化を図る。

II. ISO 改訂版の確実な運用

28年度は、帳票等の整備や書類の見直しを行い、運用を行うことが出来た。

ISO 内部監査員養成の研修に2名参加して取得した。

法人内の内部監査を監査リーダー、監査員として実施することができ、ISO に関しての理解を深めることができていく。

29年度は、新しいマニュアルでの運用が求められる為、しっかりとした運用の確認をしていく必要がある。

③. 人材育成

I. 職員の定着率向上

28年度は、介護支援専門員の受験を8名受け、2名合格した。

4月から計画を立て毎週水曜日(19:30~20:00)に勉強会を行い資格取得出来るように事業所内で支援を行った。この取り組みは、良い結果が得られたので、来年も継続していく。28年度は、18名の退職があったが、23名の採用が出来ている。

採用については、ハローワークの求人募集よりも、職員への呼びかけによる紹介が増えたので、今後も職員への呼びかけを行い、見学・面接まで繋げていく。

II. 資格取得と研修参加の推進

事業所内の勉強会は計画通り実施出来たが、参加率は日程の調整を行ったが参加率は悪かった。意識向上の為、29年度は、各ユニットリーダーからの呼びかけやポスターを掲示し啓発を行っていく。28年度は外部研修に積極的に参加することが出来た。

今後も岡山県からの情報などしっかりと確認し、外部研修への参加を促していく。

資格取得状況

介護支援専門員	受験者	8名	合格者	2名	合格率	25%
介護福祉士	受験者	9名	合格者	5名	合格率	55.5%
調理師資格	受験者	4名	合格者	4名	合格率	100%
ユニットケアリーダー研修			2名取得			
初任者研修			2名取得			
実務者研修			3名取得中			

8. アルクゆずり葉

①. 事業推進

I. 各事業所における予実管理

28年度は7月21日より管理者を変更し、新体制で事業運営を行った。

行事やカルチャースクールでの増員を図る為に、行事企画の他、生け花教室や似顔絵作成を外部の方を招き行った。3月には、稼働率を80.2%まで引き上げることが出来た。

また、介護福祉士の配置実績が整い、29年度はサービス提供体制強化加算I(イ)の算定ができるようになったことは、成果として挙げられる。

今後も、行事やカルチャー教室等を計画し、楽しめる工夫をし、増員を図っていく。

II. 新規利用者確保

28年度は、こまめに営業を行った為、他の居宅のケアマネージャーさんとの連携がとれたことで、毎月のように新規や体験利用の紹介があり、利用に繋げることが出来た。

また、体験利用から利用に繋がることも多いので、今後も案内は続けていく。

②. サービスの質の向上

I. こやまケア推進

体制が変わり、一日の流れや職員の分担を決めて動けるようになった。

毎日朝、昼、夕にミーティングを行う仕組みを作り、職員間での情報の共有が出来た。環境整備では、定期的にアルクの模様替えや季節に沿った飾りつけなど行い、過ごしやすい雰囲気づくりが行えた。

・ISO改訂版の確実な運用

II. 28年度は、帳票等の整備や書類の見直しを行い、運用を行うことが出来た。

ISO内部監査員養成の研修に1名参加して取得した。

法人内の内部監査を監査リーダー、監査員として実施することができ、ISOに関しての理解を深めることができています。

29年度は、新しいマニュアルでの運用が求められる為、しっかりとした運用の確認をしていく必要がある。

③. 人材育成

I. 職員の定着率向上

28年度は、介護支援専門員の受験を2名受け、合格できなかった。

4月から計画を立て毎週水曜日(19:30~20:00)に勉強会を行い資格取得出来るように支援を行った。

28年度は2名の退職があり、1名の採用が出来ている。

採用については、ハローワークの求人募集よりも、職員への呼びかけによる紹介が増えたので、今後も職員への呼びかけを行い、見学・面接まで繋げていく。

II. 資格取得と研修参加の推進

事業所内の勉強会は計画通り実施出来たが、参加率は日程の調整を行ったが参加率は悪かった。

意識向上の為、29年度は、リーダーからの呼びかけやポスターを掲示し啓発を行っていく。

28年度は外部研修への参加が少なかった。今後は岡山県からの情報などしっかり確認し、外部研修への参加を促していく。

資格取得状況

介護支援専門員 受験者 2名 合格者 0名 合格率 0%

9. 福祉用具販売貸与事業所あいご

①. 各事業所における予実管理

- ・「販売品に重きを置き昨年より精度を上げ在庫管理を行う。」
- ・在庫管理のソフトウェアを導入する事により、現在庫状況や売れ筋商品。
- ・販売予測がたて易くなっている。又、総務との連携が図りやすくなったことから以前に比べ格段に管理がおこないやすくなっている。
- ・28年5月より新事務所にて業務を行いオムツを中心にお客様に来所して頂くことができおり、少しずつではあるが江府町の方もお見えになれる事がある。販売品と共にサンプル品も管理をしていくことが課題となる。

②新規利用者確保

- ・「販売品(消耗品)の仕入コスト抑え、日翔会内で包括的に商品を提供していく。」仕入れルートを増やす事や、各事業所から発注数を増やす事により仕入単価を下げる事が可能となった。消耗品に関しては各事業所へ、ペーパータオルを安価にて販売・導入することが出来ている。しかし、目標としていた、その他の消耗品に関しては事業所への営業・案内不足から導入に至らなかった。今年度は消耗品の発注を福祉用具あいごにて一括で管理をおこない、新商品や安価な商品の情報を事業所へ案内する事により、日翔会内で包括的に商品を提供していく。

③. 資格取得と研修参加の推進

- ・「日本車椅子シーティング協会が主催する「シーティングエンジニア」「福祉用具専門

相談員」「おむつフitter3級研修」「福祉用具プランナー」の資格を取得。資格取得に関しては、目標としていたすべての資格取得には至らなかったが、おむつフitterや福祉用具専門相談員の資格取得が来ている。資格を取得したことにより、研修の実施も可能となった。今後も個々に挑戦し資格取得を目指していく。